

2023年7月30日
宮崎中部教会主日礼拝
牧師 乾元美

ヨエル書 2 : 12～13

エフェソの信徒への手紙 4 : 20～24

「古い人を脱ぎ、新しい人を着る」

ハイデルベルク信仰問答 第三部 全生活にわたる感謝 問 88～91

(※問答は「日々の祈り」をご覧ください。)

【招詞】申命記 6 : 4～5

【讚美歌】 24 「たたえよ、主の民」

【詩編交読】 詩編 6 編

【赦しの宣言】 イザヤ書 55 : 7 「主に立ち帰るならば、主は憐れんでくださる。

わたしたちの神に立ち帰るならば／豊かに赦してくださる。」

【讚美歌】 12 「とうときわが神よ」

【祈祷】

【聖書】 ヨエル書 2 : 12～13、エフェソの信徒への手紙 4 : 20～24

【説教】 「古い人を脱ぎ、新しい人を着る」

<感謝と悔い改め>

『ハイデルベルク信仰問答』では、第一部の「人間の悲惨さについて」、第二部の「人間の救いについて」に続き、第三部の「感謝について」という項目に入りました。

わたしたちは、自分ではどうすることも出来ない罪の悲惨さの中にあり、神さまに背き、逆らい、的を外して生きていました。

しかし、神の御子イエスさまが遣わされ、ご自分の十字架の死によって、わたしたちの罪を解決して下さり、罪の赦しと、神さまと共に生きる命を与えて下さいました。それは、ただ神さまの愛と憐みによって、一方的に差し出された救いでした。

この、救いの恵みを受け取り、イエスさまの救いを信じた者は、心からの感謝によって、神さまに喜ばれる生活へと導かれます。

それが、ハイデルベルクが第三部の「感謝について」で教えようとしていることです。

神さまに救われた者の、神さまに喜ばれる生活とは、「感謝と悔い改め」の生活です。

注意すべきは、ここで言う「悔い改め」とは、過去の過ちを反省するとか、自分で自分の心を改めるとか、そういうことではない、ということです。

悔い改めとは、回心する、ということです。回心は、改める心、ではなくて、回る心、回転する心、と書く方の回心です。つまりこれは、方向転換をするという意味なのです。

わたしたち人間の「罪」というのは、わたしたちが生きていく上で向くべき方向を誤ることを言います。聖書の「罪」という言葉は、「的外れ」という意味の言葉なのです。

わたしたち人間は、神さまによって、神さまの方を向いて、神さまと共に生きる存在として創造されました。それが、神さまに造られた人間の本来の姿であり、生きる目的であり、最も幸いな生き方なのです。

しかし、それにも関わらず、わたしたちは自分勝手な思いに従って、神さまという的を外し、神さまから逸れて、自分の行きたい方向へ歩んでいます。この「的外れ」こそが、聖書が語る「罪」なのです。

神さまから離れるなら、わたしたちは命の源から離れ、祝福から離れ、悲惨と滅びへ向かっていくしかありません。

この誤った方向を正して、神さまに向かって歩むように、自分の存在すべてを方向転換すること。そうして、滅びの道ではなく、命の道を歩いていくこと。それを、「悔い改め」また「回心」と言うのです。

今日の信仰問答は、その「悔い改め」または「回心」についてです。

わたしたちが、救いの恵みに感謝して、まことの悔い改めをもって生きるとは、どういうことなのか。その時、わたしたちに何が起きているのか。そのことを教えています。

ハイデルベルク信仰問答の間 88 は、まずこのように語っています。

「問 88 人間のまことの悔い改めまたは回心は、いくつのことから成っていますか。」

「答 二つのことです。すなわち、古い人の死滅と新しい人の復活です。」

「人間のまことの悔い改めまたは回心」とは、「古い人の死滅」と「新しい人の復活」である、と教えています。そして、それぞれこの後の問答で、説明がなされていきます。

<古い人の死滅>

まず、「古い人の死滅」についてです。「問 89 古い人の死滅とは何ですか。」

「答 心から罪を嘆き、またそれをますます憎み避けるようになる、ということです。」

ここでは、わたしたちが「悔い改める」ということは、「古い人が死滅」することであると語っています。

信仰問答は、十字架と復活のイエスさまに結ばれて、罪を赦されたわたしたちに対して、かつて罪人であった、神さまから離れていたわたしのことを、「古い人」と呼んでいます。

その「古い人」、つまり罪人のわたしは、罪を赦されて、天におられるイエスさまのものとされて、悔い改めて神さまの方を向いて歩む中で、死滅していく、というのです。

古い罪のわたしが死んでいく。それは、具体的な生活においては、答えにあるように、「心から罪を嘆き、またそれをますます憎み、避けるようになる」ということです。

かつては、罪に傾き、罪に親しみ、罪に身を任せて、支配されていたわたしたちです。そのようなわたしたちは、自分で自分を罪から解き放つ力はありませんでした。

しかし、罪の奴隷となっていたわたしたちを、神の御子イエスさまが、ご自分の命を捨てて、救い出して下さいました。イエスさまは、わたしを罪から救うために、十字架で苦しみ、叫び、呪いの死を、死ななければならなかったほどです。

しかし、そこまでしてでも、神さまは、わたしのことを重んじ、愛し、救って下さったのです。そのことを思う時。わたしたちは、自分の罪の深刻さに気付かされ、同時に、神さまのあまりにも大きな恵みを知らされます。

わたしたちの「悔い改め」は、そのように、神さまの愛を示され、自分の罪深さを知らされることによって、はじめてわたしたちの内に起こされるのです。

わたしたちは、神さまの愛を知るからこそ、罪からますます離れることを願い、神さまにますます近づくことを願うようになるのです。罪を心から嘆くようになり、またそれをますます憎むようになり、また避けるようになるのです。

それが、悔い改めて、古い人が死滅する、ということなのです。

<全生涯が悔い改め>

さて、ここで改めて、「罪をますます憎み、避けるようになる」と書かれていることに注目したいと思います。

これはつまり、わたしたちが、洗礼を受け、イエスさまによって罪を赦されても、やはり罪の現実は目の前にあり続ける。避けなければならないものとして、この世の中に、日々の生活の中にある、ということの意味しています。

洗礼を受けたなら、そこから自動的に、罪とはまったく無縁の、正しく清らかな生活が始まるものではありません。罪を赦されたとしても、わたしたちが持っている弱さの中に、怠惰の中に、疑い深さの中に、罪はいつでも顔を覗かせようとしているのです。

皆さんにも、どこか覚えがあるのではないのでしょうか。イエスさまのものとされたはずなのに、神さま中心ではなく、自分の都合中心の生活をしていること。日々の祈りが少ないこと。御言葉を聞くことが少ないこと。神さまにすべてを委ねられず、不安や、疑いや、恐れに捕らわれること。神さま以外のものに頼ろうとすること。神さまの御心よりも、世の中に自分を合わせてしまうこと。隣人を愛さないこと。赦さないこと。受け入れないこと。

…しかし、イエスさまが十字架の苦しみと死をもって、わたしの罪を、わたしのために、すべて担って下さったゆえに。そして、これから先のわたしの罪も、すべて赦しの中において下さると約束して下さったゆえに。わたしたちは、神さまの恵みの中に踏みとどまり、罪に身を委ねることなく、悔い改めをもって、罪と戦っていくことが出来るのです。

すべてに勝利されたイエスさまが、わたしと共にいて下さるゆえに。わたしたちはこの罪に満ちた世の中で、罪を憎み、罪を避ける歩みを、なしていくことが出来るのです。

わたしたちは、この地上を生きる生涯の中で、完全に罪から離れ、完全に正しい清い者となる、ということは出来ません。救いの完成は、イエスさまが再び来られる日、終わりの日に、与えられると約束されているものです。

ですから、今のわたしたちに、悔い改めをしなくて良い日など一日もありません。一生ありません。

しかし、古い罪のわたしは、確実に死んでいきます。「古い人の死滅」です。

この「死滅」という言葉は、ある解説によれば、「徐々に枯れて死んでいく」というような表現だそうです。

罪のわたしは、イエスさまの恵みにどんどん覆われて、どんどん小さく枯れていきます。わたしたちは、日々、悔い改め続けます。日々、神さまに心を向け直し、ますます罪から離れることを祈り願います。そうして、日々ますます、神さまに近づいていくのです。

宗教改革者ルターも、こう語っています。「主は信じる者の全生涯が悔い改めの生涯であることを望みたまうたのである」と。わたしたちは、まさにそのように歩んでいくのです。

<新しい人の復活>

さて、信仰問答によれば、「古い人の死滅」には、「新しい人の復活」が伴っています。

次の問 90 はこうです。「新しい人の復活とは何ですか。」「答 キリストによって心から神を喜び、また神の御旨に従ったあらゆる善い行いに心を打ち込んで生きる、ということです。」

わたしたちは、イエスさまに罪を赦されたことによって、「新しい人」として「復活」したのだ、とされています。

復活といっても、わたしたちが死んだ後の、体のよみがえりは、終わりの日に約束されていることです。ここでは、わたしたちが今生きているこの世にあって、イエスさまと出会い、一つに結ばれることによって、存在そのものが一新されること。生まれ変わらせられて、まったく新しい者とされる、という意味で「復活」という言葉が使われています。

わたしたちは、イエスさまと一つに結ばれたなら、新しい人に復活するのです。

罪人から、悔い改める者に。滅びる者から、永遠の命を生きる者に。神さまに背く者から、神さまを礼拝して生きる者に。古い人から、新しい人になるのです。

<神のかたち>

今日のエフェソの信徒の手紙で、まさにそのことが語られていました。

4:20 以下にはこうありました。「しかし、あなたがたは、キリストをこのように学んだものではありません。キリストについて聞き、キリストに結ばれて教えられ、真理がイエスの内にあるとおりに学んだはずです。だから、以前のような生き方をして情欲に迷わされ、滅びに向かっている古い人を脱ぎ捨て、心の底から新たにされて、神にかたどって造られた新しい人を身に着け、真理に基づいた正しく清い生活を送るようにしなければなりません」。

ここで 21 節に、「キリストについて聞き、キリストに結ばれて教えられ、真理がイエスの内にあるとおりに学んだはずです」とあります。

ここで、「キリストに結ばれて」、というところが大切です。信仰とは、キリストのことを聞いて、教えられて、学んで、頭や心だけで理解することではなくて。わたし自身がキリストと結ばれて、わたし自身が変わられて、キリストがわたしの生き方、人生そのものとなる、ということなのです。

ですから、イエスさまの救いを自分のものとして受け入れ、洗礼を受け、イエスさまと結ばれたなら。以前のあなた、罪人のあなた、滅びに向かっているあなた、そういう「古いあなた」は、もう脱ぎ捨てられたのだ。そう言われています。

そして、イエスさまによって、心の底から新たにされて、神にかたどって造られた「新しい人」を身に着けたのです。

心の底から新たにされて。この「新たに」という言葉は、起源的に、根源的に、一新される、という意味です。わたしの存在そのものが、新しく変えられる。

それが、「古い人を脱ぎ捨てて」「神にかたどって造られた新しい人」を着る、ということなのです。

「神にかたどって」という言葉は、創世記の人間創造の場面を思い起こさせます。

神さまは、わたしたち人間を、「神のかたち」にお造りになりました。

それは、人間が、神さまと響き合い、共鳴し合う存在。つまり、神さまの方を向き、神さまの呼びかけに答え、神さまと共に生きる存在として造られた、ということです。

そのように人間は、神にかたどられた、よいものとして造られ、また自らの心で、喜んで神さまに従う自由をも与えられていたのです。

しかし、人間はその自由を誤って用いてしまい、神さまの呼びかけに応えなくなった。響き合わなくなった。離れていった。そうして、わたしたち人間は、せっかく与えられた「神のかたち」を、自分の罪によって、歪めて、曲げて、壊してしまったのです。

わたしたちは、もうそれを自分で戻すことは出来ません。

それゆえに、神さまは、ご自分の愛する御子イエスさまをわたしたちに遣わして下さり、この方の命によって、わたしたちの罪を贖い、赦し、そして、罪によって歪んでしまったわたしたちを、新しく造りかえて下さったのです。再び、神さまに向かい合う形に。応答する形に。響き合う形に。神にかたどって造られた新しい人のかたちに、して下さったのです。

イエスさまの罪の赦しの下で、ここに再び、神さまの方を向いて、神さまを心から喜んで、神さまと共に生きるわたしが、新しく創造されました。

これが、信仰問答が語る、「新しい人の復活」です。こうして神さまが、イエスさまの救いの御業によって、わたしたちを新しくして下さったから。「神のかたち」を新しく与えて下さったから。わたしたちは、神さまの呼びかけに答えて、的を外していた歩みを悔い改めて、古い罪の自分を脱いで、神さまの方へと向かっていくことが出来るのです。

そして、信仰問答は、わたしたち「新しい人の復活」は、「キリストによって心から神を喜び、また神の御旨に従ったあらゆる善い行いに心を打ち込んで生きる」ことに、具体的に現れるのだと教えます。このような生き方こそ、悔い改めたわたしたちの生き方であり、「新しい人の復活」なのです。

善い行いに、心を打ち込む生き方。ハイデルベルク信仰問答の別の訳では、「あらゆるよい行ないに生きることを、好み愛することあります」（竹森満佐一訳）となっています。

あらゆるよい行ないに生きることを、好み、愛する。これは、わたしたちが、自発的に、心から喜んで、そのようにするのだ、ということ、より表現しているかも知れません。

善い行いを、しなければならぬ、とか。嫌々だけれど頑張っている、とか。人によく思わたいからする、とか。そういう思いがどこかにあるならば。それは、神さまへの心からの感謝と、まことの悔い改めに生きているとは言えません。

わたしたちの善い行いは、神さまに救われ、新しくされた恵みから、自然に心に沸き起こる喜びと、神さまへの愛をもってなされることなのです。

<神の栄光のために>

また、ここでいう「あらゆる善い行い」とは、わたしたちが思う善い行いではありません。問 90 の答えにあるように、「神の御旨に従った、あらゆる善い行い」です。

わたしたちの、善い、悪い、正しい、正しくない、の基準は、神さまにあります。

わたしたちは、その神さまの御旨に適った、神さまが喜ばれる善い業を、感謝と悔い改めの心をもって、喜んで為していくのです。

問 91 にはこうあります。「しかし、善い行いとはどのようなものですか。」

「答 ただまことの信仰から、神の律法に従い、この方の栄光のために為されるものだけであって、わたしたちがよいと思うことや、人間の定めに基づくものではありません。」

ですから、わたしたちは、救われて、新しくされて、これからどのように、神さまに喜ばれるように生きればよいのかな、と考える時。「神の律法」、つまり、「神さまの御言葉」をすべての基準にすればよいのです。

それで、ハイデルベルクは、次から「十戒」の項目に入ります。

「十戒」は、神さまがモーセを遣わし、エジプトから救い出された、旧約聖書のイスラエルの民が、神の民として歩むために与えられた掟です。

そして、この「十戒」は、今の時代を生きるわたしたちにとっても、イエスさまによって、罪から救い出された新しい神の民として、神さまの恵みに感謝して生きるための、「道しるべ」となるのです。

イエスさまと一つに結ばれ、神さまのものとされたわたしたちは、神さまの愛と恵みのご支配の中で、神の律法、神の御言葉、神の御旨に従って生きていきます。

わたしたちの善い行いは、自分のためにするのではなく、神さまへの感謝から生じるものであり、神さまに喜ばれるためになされます。

問 91 に、善い行いは、「ただまことの信仰から、神の律法に従い、この方の栄光のために為されるもの」である、とあったように。わたしたちの善い行いは、感謝の生活は、悔い改めの人生は、わたしたちを愛して下さり、憐れんで下さり、いつも共にいて下さる神さまを、ほめたたえるためにあるのです。

神さまを喜び、神さまのために、神さまと共に生きていくこと。これは、神さまに造られたわたしたちの、最も幸いな生き方です。

わたしたちは、この感謝と悔い改めの日々を、大切に歩んでいきたいと願います。

イエスさまと結ばれて、古い罪のわたしは日々枯れて死んでいき、新しい神にかたどられたわたしが、ますます生き生きと成長していきます。それは一生涯、続きます。

確かにわたしたちには、日々、罪との戦いがあり、日々、悔い改めなければなりません。

しかし、今日のわたしの罪もまた、イエスさまの十字架の血によって贖われています。今日も、わたしを支配するのは、罪ではなく、確かに、すべてに勝利なさったイエスさまです。

そのゆえに、今日もまた、わたしは新しくされ、神さまの方を向いて、神さまに大胆に近づいて、神さまのご栄光のために、一日を歩むことが出来るのです。

神さまのために生きることを、好み、愛する。神さまに、心を打ち込む。その幸いを、歩むことが出来るのです。

【お祈り】

天の父なる神さま

わたしたちの罪の赦しのために、御子イエスさまの十字架を与えてくださり、感謝いたします。神さまの愛を、恵みを、心から受け取り、わたしたちもまた、神さまに喜ばれる歩みをなしていきたいと願います。

イエスさまによって、罪に死に、また、神のかたちを新しく与えられたわたしたちが、どうか、心からの感謝と、心からの悔い改めをもって、喜んであなたのご栄光のために日々を歩むことが出来ますように、聖霊によって導いて下さい。

また、このように、イエスさまと結ばれて、神さまと共に生きる幸いに、感謝と喜びの生活に、一人でも多くのものを招いて下さいますように。

わたしたちの救い主、イエスさまの御名によってお祈りいたします。アーメン

【讃美歌】 516 「主の招く声が」

【信仰告白】 ニカイア信条

【十戒】

【献金】 65-1 「今そなえる」

【主の祈り】

【祈祷】

【讃美歌】 29 「天のみ民も」

【祝福】 主があなたを祝福し、あなたを守られるように。

主が御顔を向けてあなたを照らし あなたに恵みを与えられるように。

主が御顔をあなたに向けて あなたに平安を賜るように。

主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、

あなたがた一同と共にあるように。アーメン